

報告します 委員会は今

総務文教常任委員会



世羅小学校屋内運動場

●現地調査

●小学校の建設は

施設整備をしている世羅・甲山・せらひがし小学校を調査。世羅小学校・甲山小学校の屋内運動場新築工事は双方とも基礎工事中で、せらひがし小学校の増築工事も、基礎工事中であった。どの工事でもH23年上旬には完

成する。

●事務調査

●小学校統合準備は

学校統合準備委員会全体会において、7月に校章・校歌（歌詞）の決定がされた。そして、「適正規模による学習集団づくり」について世羅小学校に統合する4小学校の代表に

説明がされた。委員会では、通学対策で、主に冬季の安全運行が議論された。

高年齢福祉は

高齢者数は8月末6千386人で内810人がひとり暮らしである。介護認定者1千222人、介護サービス利用者305人、在宅支援制度には、緊急通報体制整備事業・訪問給食サービス・高齢者地域支援事業・小地域福祉ネットワーク事業・災害時要援護者避難支援制度などがある。

防災対策は

7月14日の豪雨災害では尊い命が亡くなった。町では防災計画をH19年度に策定しておりこの計画を基本方針として運用している。今回の災害対応についてもこの計画を基本として被害が最小限に抑えられるよう対応を

行ってきた。今回の災害を検証する中で必要な修正を行っていく。

行政改革プランは

H17年度～21年度までの取り組みと総括。効果として18億円の財源確保の効果があつた。内、13億円が人件費で全体の7割を占めている。財政収支では約23億

の赤字になる見込みが約11億円の黒字となり差し引きで約33億円の改善となった。

自主財源の収納状況は

H21年度の状況は町税全体の収納率96・5%・町民税95・7%・固定資産税96・7%・軽自動車税96・1%・町たばこ税・入湯税は100%であった。

物品購入等調査特別委員会

コピー機、印刷機の契約状況、競争原理が活かされているかなどの調査を4回行ってきた。いくつかの問題があつたが、4つの点を指摘し、今後の改善を求め、まとめとして、今回をもって終了することと一致した。

1 条例・規則・要綱

に基づく執行がなされず、原因をつかみ責任の所在を、はっきりすべきである。

2 長期にわたり、同

一業者継続契約の更新が続く書類の不備がチェックされていないと思われる点もある。

3 随意契約の見積も

りが、1社だけのものもあるが競争原理を働かせるべきである。

4 指名業者の公平な

参加が出来る工夫をするべきである。

産業建設常任委員会

●現地調査

道路状況は

県代行林道、下津・小世良線の進捗状況

久井町下津と小世良を結ぶ林道であるが世羅町分はH4年より着手している。

計画延長は6千736mで、完成予定はH27年度である。

町道危険箇所として国兼線と平田線の調査

国兼線は津口と大和町福田に通ずる線でこれまで用地買収の一部が残っていたがすべて整いH23年に工事に着手する。平田線は北川鉄工甲山工場の南側の道路で赤屋川橋付近がクランク状をしており自転車や歩行者が通るにはせまい道路である。但し、隣接する国道432号の改良工事が進んでおりこの工事が完成すると通行量が少な

くなることが予測される。

野積み堆肥の状況は

池田工場を視察し説明を受けた。

現在も臭いや汚水で問題がつづいている。5年を経過し袋も劣化し中身の出たものもあった。小世良の野積み肥料の撤去は、地権者との同意書によりH23年7月までには撤去を終えるようにする。

●事務調査

観光事業の取り組みは

観光協会の会員数は197人。協会では、岡山・香川・徳島・愛媛など観光PRキャラクターで40社を回りより多くの観光客が来町されるよう活動された。また、町内をスムーズに観光できるよう案内標識看板の修繕や新規

作製も行っている。今後、尾道松江線の開通を見据え島根県の行政や観光協会と連携できるものはないか積極的に取り組んでいる。

生活環境を守る条例は

県の対応状況を見る必要がある。今に至った。野積み堆肥と同じケースが出ないよう、12月議会で条例改正の

予定である。犬の糞の苦情も多くあり糞害防止についてもうたう予定。

農業の現状と方向は

中山間地域直接支払い制度の3期は転作の要件がなくなった。生産調整達成の農家や法人がどのような米の生産状況にあるか調査中である。



池田工場で現地説明

公共下水道事業調査特別委員会

公共枡の接続状況は

現在、公共枡設置2

58件に対し115件44%の接続状況である。今年度末で152件の接続予定。

今後の事業の方向は

今後の工事は、手綱川まで幹線を延ばし、費用対効果をあげるた

め、今後2～3年は幹線工事に力を入れた

い。しかし、甲山地区は当初から話があり、下水道に期待しているが、今になって後回しにされたのでは困るとの意見があり、今後、全体の事業の進行状況をみて進めたいと説明。

尾道松江線調査特別委員会

甲山インター(仮称)から南の工事はほぼ完了し供用開始を待つまでとなっている。時期はH22年度中としか報告されていない。以北は用地買収が残っており最大の課題となっている。

委員の中からは過疎地域自立促進計画・全町農村公園化構想も計画され進んでいく中、

開通式も近く尾道松江線を活用した町づくりが今後の課題であり、構想・計画が打ち出された中で、総務・経済の両常任委員会の中で論議・調査することが適切であり、特別委員会では余りに問題が大きすぎると言う意見がでた。よって、本特別委員会は今回をもって終了することと一致した。